

中間評価シート

中間評価（表紙）

磐梯町歴史的風致維持向上計画（平成28年1月25日認定） 中間評価（平成28年度～令和2年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物・遺構の整備、活用	3
II 歴史的風致に係る活動の保存・継承	4
III 歴史的風致の周辺環境の整備	5
IV 歴史的風致の普及啓発の推進	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 観光来客数の増加	7
ii 文化財の継承と啓発活動の充実	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 歴史的まちなみ整備事業	9
B 慧日寺門前市整備事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 慧日寺の継承・復元活動に見る歴史的風致	11
2 磐梯神社の祭礼にみる歴史的風致	12
3 磐梯山を中核とする山岳信仰と修験に見る歴史的風致	13
4 大寺地区に見る歴史的風致	14
5 赤枝彼岸獅子に見る歴史的風致	15
■ 庁内体制シート（様式6）	16
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	17
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	18

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	慧日寺の継承・復元活動にみる歴史的風致	I～IV	
2	磐梯神社の祭礼にみる歴史的風致	II, IV	
3	磐梯山を中核とする山岳信仰と修験にみる歴史的風致	III	
4	大寺地区にみる歴史的風致	III, IV	
5	赤枝彼岸獅子舞にみる歴史的風致	II, IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物・遺構の整備、活用		
II	歴史的風致に係る活動の保存・継承		
III	歴史的風致の周辺環境の整備		
IV	歴史的風致の普及啓発の推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光来客者の増加		
ii	文化財の継承と啓発活動の充実		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	歴史的まちなみ整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	慧日寺門前市整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
方針	I 歴史的建造物・遺構の整備、活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 史跡の維持管理はなされ、発掘・整備の取り組みが実施されてきたが、中心伽藍部を中心に行われているだけで、全体的な歴史的価値を把握するための十分な成果を得るに至らず、継承・復元活動の場として整備が行き届いていない。

【方針】 継承・復元に向けた地域の思いを具現化するため、歴史的風致の維持向上に資する建造物や遺構の整備、活用を図り、適切な方法での公開等を推進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	史跡慧日寺跡整備事業	中心伽藍部発掘調査	あり	H28～R7
2	花川自然石護岸及び水路改修事業	普通河川花川護岸改修工事(L=62m)	あり	H28～R元
3	史跡慧日寺跡活用事業	ライトアップイベント、野外講演会(延べ21回)	なし	H28～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●史跡慧日寺跡整備事業

史跡慧日寺跡保存管理計画(H3)を策定し、史跡の公有化拡大を図り発掘調査を進め、史跡の全容解明を実施した。

●花川自然石護岸及び水路改修事業

史跡の中心伽藍である本寺地区に普通河川花川のコンクリートブロック積みの護岸を、自然石護岸に改修するため、調査測量設計(H29)・実施工事(H30～R元)を実施し、往時に近い姿に修景することができた。

●史跡慧日寺跡活用事業

復元された金堂・中門を活用したイベント開催による活性化や、発掘体験、写生会等、学校教育と生涯学習の場としての活用を実施した。

「月まちの灯り H29～R元」、「ともし火と仏教音楽の夕べ H29～R元」



第31次発掘調査 H30.10



花川自然石護岸 H31.3



月まちの灯り開催時の様子

④ 自己評価

史跡慧日寺跡は、史跡整備の基礎調査が継続的に実施された。また河川自然石護岸改修事業では、歴史的まちなみの再生の効果を高め、史跡の認知度・価値の向上に努める事が出来た。

更に復元された金堂・中門を活用したイベント開催では、県内外の来訪者を迎え、磐梯町の歴史と魅力を発信する事が出来た。

⑤ 今後の対応

中心伽藍本寺地区の往時を復元し、立体的展示の充実を図るため、引き続き発掘調査を推進し史跡整備事業を推進する。

また史跡慧日寺跡の活用にあたっては地域住民との連携のもと、史跡慧日寺跡保存管理計画を更新し、史跡の活用と公開を推進する。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
方針	Ⅱ 歴史的風致に係る活動の保存・継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 史跡慧日寺跡の保全・整備は、住民の自主的組織「慧日寺史跡保存会」が担っていたが、会が解散したため、活動を続ける団体や後継者が育成されていない。また町内各地区に受け継がれる祭礼や民俗芸能も少子高齢化や若年層の流失等に伴い、活動の継承が危惧される。

【方針】 歴史的風致に係る知識を人に伝承するガイドの育成や、民俗芸能継承のため地域の民俗文化財に用いる用具等に対する助成制度等、環境整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝統文化財継承事業	<ul style="list-style-type: none"> ・県指定重要無形民俗文化財（磐梯神社の巫女舞）衣装新調更新補助 ・町指定民族文化財（赤枝彼岸獅子）関連用具の修理等の補助 ・町指定民族文化財（布藤山の神の獅子頭及び用具6点）のうち神楽面4面の修復 ・明神の舞復元に向けた調査映像記録 	あり	H28～R7

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

● 伝統文化財継承事業

県指定重要無形民俗文化財（磐梯神社の巫女舞）衣装新調更新への補助、また担い手不足が深刻な問題となっていた巫女舞においては新たな形の保存団体「従来の地元地区主体から小学校単位に地区を広めた団体」が発足した。

町指定民俗文化財（赤枝彼岸獅子）関連用具の補助、同じく（布藤山の神獅子頭及び用具6点）のうち「神楽面4面について、文化財的価値を気づけないよう助言を行いながら修復を行った。」

江戸末期に中断した「明神の舞」の復元では、町内外に残された文献を基に、舞の所作や囃子を調査し「文化財継承事業報告書」として作成した。また所作と囃子を映像録画し、後世の復活に向け記録とした。



新調更新した衣装 H30.10



修復した神楽面 R元.10

④ 自己評価

地域住民が守り継承してきた伝統を、次の世代に引き継ぐため、衣装新調更新に対して支援を行い、将来に向けた礎が築かれた。

磐梯神社の巫女舞の担い手不足では、地域住民と協議を行い各学校の協力を得て新たな保存団体が発足したことは、民俗文化財の継承意欲向上に繋がった。



文化財継承事業報告書

⑤ 今後の対応

各種事業の成果によって、伝統文化財に対する町内外の関心が高まった。また地域住民のシビックプライド醸成に繋がり、伝統継承に向けた取り組みに繋がる循環が生み出された。

今後も民俗文化財に対して支援を継続して実施していく。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
方針	Ⅲ 歴史的風致の周辺環境の整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 史跡慧日寺跡へ延びる参道沿いに広がる本寺集落は、往時には門前町として栄えた明治以前の面影を残す民家や石垣がある。しかし往時の姿とは似つかわしくない異質な近代的建築手法に基づく建物が建設されている。

【方針】 史跡慧日寺跡周辺地域は住民から求められている参道における歴史を活かした魅力ある景観形成に向け、歴史的価値の高い建造物等の調査を行い、歴史的文化が感じられるよう修景整備等を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的建造物保存事業	磐梯町歴史的風致形成建造物補助金による支援(4件)	あり	H28～R7
2	歴史的まちなみ整備事業	磐梯町歴史的まちなみ景観形成補助金による支援(3件)	あり	H28～R7
3	歴史的文化遺産調査事業	本寺地区内歴史的建造物悉皆調査の実施(52件) 歴史的価値の高い石垣の調査(17件)	あり	H28～R7
4	慧日寺門前市整備事業	空家歴史的風致形成建造物改修による多機能型施設の整備	あり	H28～R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●歴史的建造物保存事業
歴史的風致形成建造物指定候補のうち、保存すべき建造物4件に対して、地域の歴史的な技術や手法を踏襲した外観等改修の支援を実施した。

●歴史的まちなみ整備事業
歴史的風致形成建造物以外の建物や塀等を、まちなみに調和するよう外観等の修景を希望した3件に対して支援を実施した。

●歴史的文化遺産調査事業
本寺地区内の歴史的建造物を把握するため、築50年を超える建造物悉皆調査を実施した。(H28～29 52件)
また同地区内の歴史的価値の高い民家住宅石垣の実測調査等を実施した。(H30～R1 17件)

●慧日寺門前市整備事業
歴史的風致形成建造物指定候補のうち、保存すべき空家建造物1件を買取り、ファサードを持つ観光案内所を兼ね備えた多機能型施設として整備した。



歴史的建造物保存事業 H30.12



建造物悉皆調査の様子

④ 自己評価

建造物保存事業は歴史的風致形成建造物を5件指定し、保存に関する補助・支援を行い、地区内の建造物保存意識の醸成に繋がった。
建造物悉皆調査では地域内の歴史的建造物の全体像を始めて把握できたことは、特筆すべき成果である。

⑤ 今後の対応

建造物悉皆調査で把握した資料及び歴史的価値の高い民家住宅石垣の実測調査を活用し、建造物所有者と連携を図り、理解と協力の元で更なる保存に向けた取り組みを推進する。
また地区来訪者に向けた歴史的遺産の活用と公開を推進する。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
方針	Ⅳ 歴史的風致の普及啓発の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 歴史的風致の維持向上を図るためには、町民からの自発的な取り組みが必要であるにも関わらず、町民に歴史認識をもってもらい取り組みが不十分である。また歴史的風致を紹介する案内板やパンフレット等が限られており、歴史に触れる機会が少ない。

【方針】 歴史的風致に対する理解を深め、新たな魅力の開拓や将来に歴史を紡いでいくために、ワークショップやシンポジウム等を開催する。また歴史的風致地区の散策者の回遊性を確保するために周辺の環境整備や案内ガイドの育成を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	史跡慧日寺跡へのアプローチ整備事業	参道沿いの除草及び花壇植栽(毎年 年2回)	あり	H28～R7
2	歴史を活かしたまちづくり推進事業	歴史まちづくり講演会、ワークショップ等開催(R2までに10回)	あり	H28～R7
3	歴史的風致紹介ガイド育成事業	史跡紹介ボランティア育成、研修(R2までに育成研修6回、ガイド実績13回)	あり	H28～R7
4	歴史的資源周知サイン整備事業	歴史的建造物案内板設置(R2までに5基)	あり	H28～R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●史跡慧日寺跡へのアプローチ整備事業
慧日寺参道沿いの除草及び花壇への植栽を、地域住民のボランティアにより開始。住民の郷土愛と歴史的に魅力ある空間形成の向上に繋がった。

●歴史を活かしたまちづくり推進事業
本寺地区に現存する歴史的遺構を再認識する「魅力発見まち歩きツアー」の実施と、まち歩きで発見した新たな魅力を、観光・生涯学習の観点で伝える、全町民を対象とした歴史まちづくり講演会を開催した。

●歴史的風致紹介ガイド育成事業
歴史的風致ボランティアガイド研修や養成講座を行い、来訪者への説明を実施する事で、ボランティア本人が町の歴史的風致の価値と魅力を再認識する契機となった。

●歴史的資源周知サイン整備事業
町内に点在する遺構や歴史的建造物、文化財等の歴史的資源に触れる機会を増やすために、多言語化の案内板等を設置し、効率的な回遊ルートの構築を図った。



アプローチ整備事業(植栽) H30.6



魅力発見まち歩きツアーの様子 H29.11

④ 自己評価

歴史的風致と周辺環境に考慮した景観の保全、また町民参加型のまち歩きツアー、町民がボランティアガイドとして来訪者に歴史的風致を紹介する等、歴史文化資源の認知度や関心度が高まった。



ボランティアガイドによる説明

⑤ 今後の対応

事業計画はもとより関連する事業を並行して展開、併せて来訪者に分かりやすい情報発信に努めていく。

また町内各地に点在する文化財や歴史的建造物を線で結び、今以上に歴史・文化資源に触れる機会の創出に取り組む。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
効果	i 観光来客数の増加		

① 効果の概要

磐梯町歴史的風致エリアの誘客事業等の取組みによる観光入込客数の増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	磐梯町振興計画	あり	H28～R1
2	磐梯町総合計画	あり	R2
3	都市再生整備計画(大寺・本寺地区)	あり	H25～29

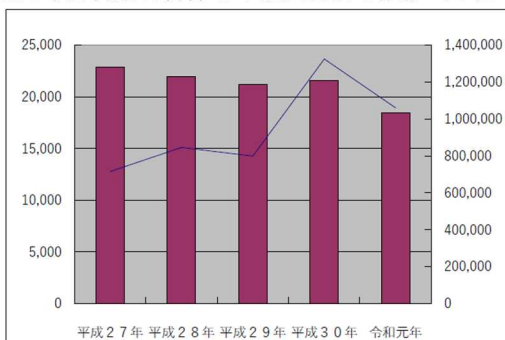
③ 効果発現の経緯と成果

磐梯町歴史的風致維持向上計画にて情報発信、教育・学習基盤施設として位置付けた「磐梯山慧日寺資料館」は、H30.7に史跡中心伽藍金堂内復元展示物「薬師如来坐像」の公開を契機に、歴史的風致を発信する拠点として多くの観光客を迎え入れた。

史跡を活用したイベント「月まちの灯り」「慧日寺門前市」を開催し、県内外から多数の観光客を迎え、町民と観光客の交流人口を大幅に増大させた。

また毎年春分の日には、県指定重要民俗文化財（磐梯神社の舟引き祭りと巫女舞）を開催、多くの観光客が訪れ、会津の春の風物詩となっている。

磐梯山慧日寺資料館と磐梯町の観光客数の推移（単位：人）



■ 磐梯山慧日寺資料館入込客数 — 町観光客数

歴史的風致エリアへの観光客の増大は、風致を紹介するガイドにとっても、人々と触れ合う機会の増大に繋がり、観光客とともに磐梯町民が、地元の歴史文化の価値継承について理解を広げる機会となった。



ガイド育成の様子

④ 自己評価

H30の金堂内復元展示物「薬師如来坐像」公開以降は観光客の増大に繋がり、史跡慧日寺跡の文化財を知り感じていただける機会の創造の場となり、観光客からも好評を得た。また多様な客層へのアプローチができたことは大きな成果であった。

⑤ 今後の対応

現在の体制での対応ではPR力に限界があるので、今後も積極的に町の歴史を感じられる施設等を訪問いただける機会を創造したい。

また今後は新型コロナウイルス感染症対策を十分に図り、来訪者の安全・安心の確保の取組みを推進していく。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
効果	ii 文化財の継承と啓発活動の充実		
① 効果の概要 文化財に触れ、学び、継承に向けた機会の創造			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	磐梯町振興計画	あり	H28～R1
2	磐梯町総合計画	あり	R2～R9

磐梯町総合計画では文化財の調査・保存・整備の推進と、理解を深め親しんでもらえる公開・活用の推進を実施することとしている。

③ 効果発現の経緯と成果

町内には縄文時代の遺跡や、平安時代から1000年の悠久の時代から繋がる慧日寺等歴史的資源が数多く残されている。また江戸時代から引き継がれている、県指定重要無形民俗文化財の「磐梯神社の舟引き祭り」と巫女舞」や町指定民俗文化財の「赤枝彼岸獅子」「布藤火伏せ」は、伝統行事の要素とともに町独自の魅力を発信するツールとなっている。

しかし近年の少子化の影響により、伝統的な人選による人員の確保は困難となり、且つ無形民俗の衣装やお面等の維持管理にも支障をきたしていたが、保存継承団体での人選の刷新による担い手が増大。（H29まで6名、H30から13名）また無形民俗衣装等の補修更新等により、今後も継続的な伝統行事の継承が可能となった。



巫女舞の練習風景



赤枝彼岸獅子の練習風景

④ 自己評価

民俗文化財が組織的な刷新等により、次の時代へ引き継ぐ体制が作られたことは大きな成果となった。

しかし令和元・2年度とも新型コロナウイルス感染症のため、神事のみで開催となった事は大変遺憾である。



修復した布藤山の神の獅子頭

⑤ 今後の対応

今後は新型コロナウイルス感染症対策を十分に図り、歴史的風致の安全・安心の確保の取り組みを推進していかなければならない。とりわけ密になりやすい民俗文化財の開催は感染症拡大防止のため、中止を含めた決断を考慮しなければならない。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
取り組み	A 歴史的まちなみ整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

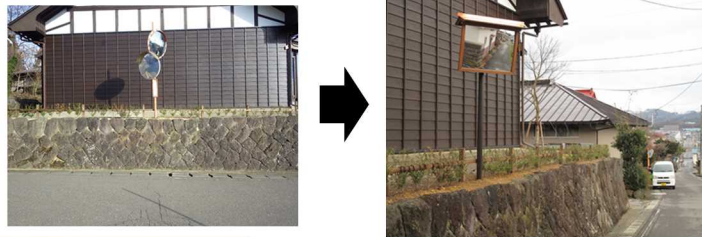
① 取り組み概要

歴史的風致維持向上計画策定前、本寺地区内のカーブミラーは交通事故防止の観点から丁字路等各所に設置されていた。しかし画一的な構造の既製品を採用したため、形状や色彩等が門前町の風情を阻害していたため、機能はそのままとし木製加工したカーブミラーの修景を実施した。

また門前町参道沿いの景観向上を図るため、本寺地区案内図や住宅板塀の修景を実施した。

カーブミラー修景

平成28年度 更新設置：2基
 平成29年度 更新設置：2基
 平成30年度 更新設置：1基



案内板・板塀

修景

令和元年度
 各1基



② 自己評価

現在歴史的まちなみ整備を推進している地域は、重点区域内の「本寺地区」を主とし、かつての門前町の風情を取り戻すよう、計画的且つ効率的な修景事業を住民の理解を得ながら実施できている。

一方で重点区域内の本寺地区以外の地域においては、二本松街道沿いの宿場である「大寺地区」があるが、まちなみ整備による修景事業の整備が進んでいない状況であるため、今後検討する必要がある。

外部有識者名	蛭川 大 氏（磐梯町文化財保存会 会長）
外部評価実施日	令和3年●月●●日

③ 有識者コメント

④ 今後の対応

歴史的建造物保存事業により修理保存の完了した建物周辺を中心に、工作物等のまちなみ整備事業を、今後、より一層推進しなければならない。

また地域住民の郷土愛への醸成を後押しし、まちなみ整備が歴史的風致計画内全域に広がるための行政の役割を進める。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
取り組み	B 慧日寺門前市整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

歴史的風致維持向上計画策定前、本寺地区参道沿いに築100年を超える、地域の代表的な歴史的農家住宅があったが、数年前から空き家となり管理も十分に行き届いておらず景観を阻害する恐れがあった。

このため町では「旧吉田家住宅」を歴史的風致形成建造物に指定し、その保存と活用に着手し、建物所有者の理解を得て地域の歴史的景観を象徴するファザード持つ地域活性化の拠点となる、多機能型施設を整備し

室内の配置

特産品案内・販売スペース

イベント・交流スペース

休憩・喫茶スペース 観光案内兼事務所

openした旧吉田家住宅

改修した土間

② 自己評価

歴史的風致形成建造物「旧吉田家住宅」は軽食喫茶の提供と、地域文化の情報発信拠点として、また来訪者と地域住民との交流の機会を提供する機能を発揮する事が出来た。今後も積極的に文化財の情報発信・PRを実施していきたい。

外部有識者名	蛭川 大 氏（磐梯町文化財保存会 会長）
外部評価実施日	令和3年●月●●日

③ 有識者コメント

④ 今後の対応

本寺地区の歴史的な形成建造物のシンボリック建造物として、地域内の歴史的建造物保存整備事業を今後より一層推進していく。

なお令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により土日休日のみの開放となった。今後も感染症対策を十分に検討し取組を推進していく。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	1 慧日寺の継承・復元活動に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物・遺構の整備、活用 III 歴史的風致の周辺環境の整備 II 歴史的風致に係る活動の保存・継承 IV 歴史的風致の普及啓発の推進		

① 歴史的風致の概要

創建以来、慧日寺は人々の心の支えとなってきた。戦や火災に巻き込まれた慧日寺は、何度も寺勢衰退を迎えたが、人々の強い思いによって復興が繰り返され、今日に継承されている。慧日寺参道は時代が変化しても変わることなく踏襲され、参道沿いに形成されてきた屋敷割や石垣が広がるまちなみは当町固有の景観を織りなしている。

② 維持向上の経緯と成果

国指定史跡慧日寺跡は町のシンボルであり、会津地方を代表する歴史的遺産である。

昭和45年に国の史跡に指定、昭和60年から発掘調査が始められ、平成17年から史跡整備事業に着手、平成21年に金堂・中門の復元を含む第1期整備が終了した。平成22年度以降も現在に至るまで毎年度、史跡未調査地区の発掘調査を実施し、第2期整備に向けた調査記録保存を実施している。

また本寺地区の歴史的建造物保存事業や歴史的まちなみ整備事業の推進により、地域住民の史跡慧日寺跡への保存意識と、自己所有建造物や石垣等の文化財価値の再認識が進み、景観保持意識の向上が進んでいる。

こうした一連の活動と事業は、会津仏教文化のシンボルである慧日寺を誇る地域住民の心が下地になっている事は紛れもない事実である。



未調査地区の発掘調査



整備が進む慧日寺跡と門前に連なる本寺地区のまちなみ



地域住民による史跡慧日寺跡の除草作業

③ 自己評価

史跡慧日寺跡の保存公開とともに、周辺地域の景観改善が図られた。

また歴史的維持向上計画に位置付けた事業推進により、地域住民の歴史文化に対する理解と意識向上に繋がっている。

④ 今後の対応

今後も史跡指定地の公有化、除草等による保存と景観改善を図る。

第2期の史跡整備着手に向け発掘調査を推進し、史跡慧日寺跡の認識向上に取り組む。

住民団体による住民主体、住民連携の取組みの推進を行政がバックアップし、歴史的風致の重要性を伝えていく。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	2 磐梯神社の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的風致に係る活動の保存・継承 Ⅳ 歴史的風致の普及啓発の推進		

① 歴史的風致の概要

磐梯神社の「舟引き祭り」「巫女舞」は慧日寺の年中行事が磐梯神社に引き継がれ、神事であると同時に氏子である地区住民総出で開催される”むらの鎮守の祭り”としての意味合いを持つ。

現在でも本寺地区住民が一丸となって祭礼を盛り上げ、準備から後片付けまでの一切を行っている。祭礼は毎年春分の日に行われ、舟を引く掛け声と巫女舞の笛・太鼓の音色が響き渡り、本寺地区は賑わいを見せている。

② 維持向上の経緯と成果

慧日寺の流れをもつ、磐梯神社の「舟引き祭り」と「巫女舞」の歴史的な民俗芸能は、過疎化や少子化、若者層の流出等に伴い、中核的な担い手になる後継者不足が懸念され、本来の活動の継承が危惧される状況にあった。

また現在行われている活動についても、地域の歴史的な民俗芸能の伝統行事に対する町民の認識が低く、安定した存続が望みが薄かった。

よって歴史的な民俗芸能のその価値に対する認識の向上と承継保存の促進に努めるため、地域住民主体での新たな保存団体の発足や、経年劣化に伴う装束の新調更新に係る助成事業の実施により、行事の継承意欲向上に繋がった。



新調更新した装束での巫女舞



3回の引き合いで勝負を決める舟引き



新調更新した「磐梯神社の巫女舞」の装束

③ 自己評価

各種助成事業や新たな保存団体の発足により、活動の継承に繋がったことは大きな成果である。

しかし少子化の傾向が続く限り、中核的な担い手になる後継者不足が懸念され、参加範囲の拡大等の検討が必要と考える。



舟引き祭り見学者に蕎麦をふるまう地域住民

④ 今後の対応

今後も継続的な支援事業の展開により、活動の継承に繋げていかなければならない。
なお令和元・2年度とも新型コロナウイルス感染症により祭礼が中止となり、民俗芸能の所作や準備一切等の伝承が懸念されるため、映像等による記録保存に努めなければならない。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	3 磐梯山を中核とする山岳信仰と修験にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史的風致の周辺環境の整備		

① 歴史的風致の概要

町の名前にも「磐梯」とあるように、磐梯山は、磐梯町にとって特別な存在である。山岳信仰や修験に由来する祭礼が今日に伝えられている他、磐梯山登山は町民であれば誰もが経験する原体験である。また磐梯山への信仰に基づく祭礼が現在も執り行われており、白馬を連れて厩嶽山に登る厩嶽山祭りには、県内外から大勢の参加者が集まる。

このように、霊峰磐梯山の山麓に暮らす人々が、時には山を敬い、時には山に親しみを感じながら、長年にわたって築き上げてきた良好な風致である。

② 維持向上の経緯と成果

慧日寺を中核とする磐梯山の山岳信仰に基づいて、古来より修験が行われてきたことを示すため、厩嶽山登山道における案内板の設置や、厩嶽山祭り時における修験道の除草や枝払い等を実施し、適切な保全活動を行った。

明治初期から出羽三山詣りや飯豊山詣りの籠り堂として別火とみそぎが行われていた「不動院龍宝寺不動堂」への歴史的資源周知サイン整備による多言語対応の案内板を設置、訪日外国人旅行者の呼び込みや、文化財等の歴史的資源に触れる機会を増やした。



厩嶽山登山口に設置した案内板



不動院龍宝寺不動堂



不動院龍宝寺不動堂のサイン整備



厩嶽山馬頭観音堂周辺の保全活動

③ 自己評価

登山道（修験道）に係る遺構調査、調査結果に基づく整備事業を計画していたが、発生が頻発する有害鳥獣被害より、遺構調査の完結には至らなかった。しかし地域住民団体主催による「厩嶽山祭り」は毎年度実施され、往時の風情をPRすることができ認知度は高まった。



厩嶽山祭りの様子

④ 今後の対応

登山道（修験道）遺構調査を継続し、埋もれている歴史資産の掘り起こしを実施しなければならない。

なお令和2年度は新型コロナウイルス感染症により厩嶽山祭りが中止となったが、新型コロナウイルス感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していくことが必要である。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	4 大寺地区にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史的風致の周辺環境の整備 Ⅳ 歴史的風致の普及啓発の推進		

① 歴史的風致の概要

会津若松城下から猪苗代を経て奥州街道に至る二本松街道沿いの大寺地区は、近世には宿場町として発展し、近代以降は、商店街として栄えた。同じく近世に始まった山神社祭礼は、今日においても人々の楽しみとなっている。二本松街道沿いに立ち並ぶ蔵や伝統を守り続けている人々の姿、折々に実施される祭礼が現在も継承されており、今なお人々のにぎわう姿を見せている。

時代によって顔を変えながらも、近世以降、人々のにぎわいの中心として存在してきた大寺地区では、まちの変遷を感じさせる独特な歴史的な風致が形成させている。

② 維持向上の経緯と成果

奥州街道に抜ける宿駅として発展した大寺地区では、現在でも屋号が伝承され、造り酒屋等が立地しているが、宿駅としての歴史を体現するまちなみや屋号、祭礼等の保全継承に努めるための事業を実施した。



【大寺宿再発見まち歩き】

地域住民を対象に地元郷土史家を講師として、大寺宿のまちなみの歴史的価値を発見する、まち歩きツアーを実施し、郷土の歴史的文化的資源の価値を共有した。



まち歩きツアーの様子

【藍染による屋号暖簾製作】

新たな商品開発事業で、地元産の藍による暖簾の染め物を製作、大寺地区の屋号を持つ店舗に配布し、往時を体現できる活動を実施した。



藍染の暖簾製作

【山神社祭礼の継承】

毎年秋分の日に実施される、大寺の総鎮守である山神社の例大祭の継承を目的として、山神社祭礼実行委員会へ人的支援を行った。

③ 自己評価

地域住民が主体となって実施した大寺宿再発見まち歩きツアーでは、身近な歴史的文化的資源の再発見と理解が進んだ。

一方で歴史的風致形成建造物の保存事業の着手には至らず、所有者等へ歴史的価値の保存継承への周知を図らなければならない。

④ 今後の対応

過疎化の進行により歴史的建造物の空き家が増加しているため、売買や賃貸等不動産の流動化事業とともに助成制度の再周知を図り、歴史的建造物の保存継承を強化したい。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	4 赤枝彼岸獅子にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的風致に係る活動の保存・継承 Ⅳ 歴史的風致の普及啓発の推進		

① 歴史的風致の概要

春が近づくと、赤枝地区では、五穀豊穡を願って、中世から伝わる赤枝彼岸獅子が舞われる。赤枝彼岸獅子の特徴は所作が鮮やかで、荒々しい野趣にあふれた力量感にある舞の点である。

赤枝彼岸獅子は、長男のみが伝承できるという鉄則が現在でも固く守られており、地区住民が一丸となって保存・伝承に努めている貴重な行事であり、次代に継承すべき町の財産である。

② 維持向上の経緯と成果

1056年、源頼義の阿部頼時討伐の際、獅子舞によって士気を高めたことが始まりとされており、他所からの移入されたものと考えられる赤枝彼岸獅子である。

長男のみが伝承できるという鉄則のため、後継者不足が懸念されていたが、赤枝地区は現在でも100を超す世帯と磐梯町の人口の10分の1を上回る370余人の人口を抱える大集落のため、他の伝統的民俗芸能活動の継承程の危機感はない。

しかし伝統的民俗芸能活動の継承には、地域住民の後押しは不可欠なものであり、町共有の財産として行政のPR等も継承意欲向上に繋がっている。



地区集会所での練習風景



赤龍寺での「寄せぶち」奉納



道の駅ばんだいで披露された舞

③ 自己評価

赤枝彼岸獅子の踊り手は赤枝地区青年会が引き継いでいるが、同時に同地区消防団員も兼ねている等、結束とコミュニティの結びつきが特に強い地区であり、地域が一体となって守り継承している実態を把握することができ、効率的な周知啓発に繋がった。

④ 今後の対応

地域が一体となった保存継承が今後も継続できるよう支援する。

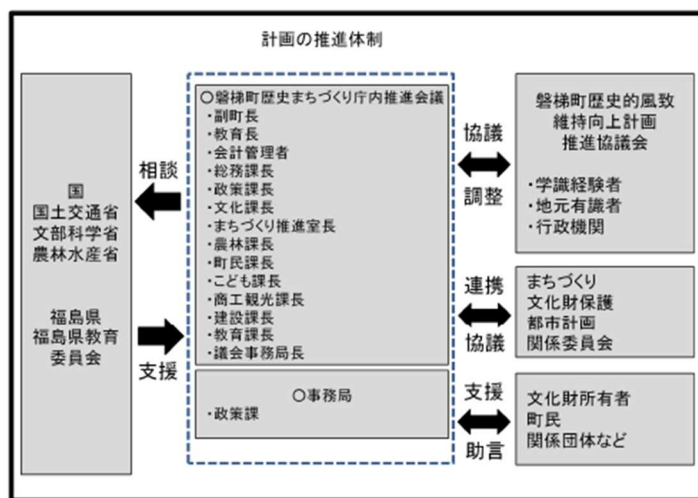
市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

磐梯町歴史的風致維持向上計画の認定当初は、政策課内のまちづくりプロジェクトチームを事務局とし、教育委員会文化課が文化財及び磐梯山慧日寺資料館を運営しながら各種事業に取り組んでいた。

また庁内全課長を委員に、磐梯町歴史まちづくり庁内推進会議を開催し、計画の推進と調整を図っている。

平成29年度からは政策課が主管課として事務局を担い、令和2年度からは政策課内にDX変革戦略室を創設し、住民本位の行政、地域、社会の実現、観光、文化財の公開等を主目的とするデジタル変革を目指すとともに業務効率化、省人化を主目的とするICT化による歴史的な文化財等の保存公開を目指している。



計画の推進体制図



歴史まちづくり庁内推進会議

② 庁内の意見・評価

- ・ 計画書計上事業のうち、計画どおり順調に推移しているもの、計画どおり進捗していないものの整理と、今後の実現性を再検討する。

- ・ 歴史的風致維持向上計画認定を契機に、住民の文化財への注目度や興味度が高まった。

- ・ 令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響により、町の歴史を感じさせる施設等への来訪者が激減しているが、感染症対策の十分な検討とともに収束後の対応についても併せて検討が必要だ。

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
<p>① 住民意見</p> <p>※ 中間評価シート（暫定版）完成後、パブリックコメント予定</p>			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>磐梯町歴史的風致維持向上計画推進協議会（H28～R1コメントより抜粋）</p> <p>（H28 - H29）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道設備が導入されたことにより、各家の裏側で水を使っていた名残のある石垣は無用の長物化してはいるが、石積みや水があったことによる魅力をどう再現していくかが今後の課題。水や石垣は本寺地区の歴史を構成する上で大事な要素なので、庭師が手入れを行うような技術の蓄積や育成を行って、質の高い歴まち事業を行っていただきたい。 ・旧吉田家住宅の活用方法については今後「保存・管理・活用計画」を策定することのことだが、法定協議会委員の方々にも専門的な知見から計画を策定するにあたりご助言いただきたい。また、早期に管理計画を策定することにより、現場の進捗や今後の利活用を検討していくうえでも重要となる。 <p>（H30）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的に建物の修理・保存が分かる技術職を雇う市町村は少ない。基本設計を基に施工する際には価値の高い歴史的建造物として施主・施工業者が十分理解し、更には専門部会等の意見を反映すべきである。 ・文化財的価値を守るためにも、コンサルや施工業者向けの共通仕様書（ガイドライン）が必要と考える。 <p>（R1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・③-19ガイド育成が進捗することは高く評価します。このガイド育成と地域住民の方々の保存意識醸成が両論のように進むことが期待されます。 ・③-2過去の5棟の実績は計画通りに進捗しているのか。所有者の資力などの問題もあるが、計画的に進めるには、修景に協力し補修を実施したい所有者の要望などを事前にお聞きした中で、先の年度計画に取り入れることも必要かと思えます。 ・③-22道の駅ばんだいを拠点とした観光客を史跡慧日寺に誘導する有効な事業と考えます。また、今後のことを考えれば、本寺地区住民にとって交通安全などの生活道路の確保は重要な問題であり、実現できるよう着実に進めていただきたい。 <p>（R2）</p> <p>.....</p> <p>.....</p>			

市町村名	磐梯町	評価対象年度	H28～R2年
<p>① 全体の課題</p> <p>(1)【歴史的建造物・遺構の整備、活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物の歴史文化財的価値を共有できない部分がある。また過疎化の進行により空家化し、土地の管理も行き届かず周辺の景観を阻害する要因になっている。 ・史跡慧日寺跡の整備は中心伽藍のみでは整備が十分ではない。全体的な整備には発掘調査による事実証明が必要である。 <p>(2)【歴史的風致に係る活動の保存・継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化や若者層の流出等に伴い、地域の祭礼や民俗芸能活動の継承が危惧される。 <p>(3)【歴史的風致の周辺環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物は地域固有の貴重な財産であるが、所有者・地域住民とも認識が希薄で、日常的に管理が行き届いていない。 ・歴史的建造物以外の周辺環境も台風や雪害等自然災害や、経年劣化が進行し良好な景観が阻害されている。 <p>(4)【歴史的風致の普及啓発の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的文化財の価値が十分に普及されていないため、地域住民の認識が希薄である。また来訪者が歴史文化資源を体験するためには、ストーリー性と回遊性を更に向上させる必要がある。 			
<p>② 今後の対応</p> <p>(1)【歴史的建造物・遺構の整備、活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建造物悉皆調査で把握したリストを活用し、所有者や地域自治会と連携しながら協力を得、保存に向けた取り組みを推進する。 ・R3に更新を計画している「史跡慧日寺跡保存管理活用計画」に基づき、未整備の史跡整備を推進しガイダンス機能の充実を図る。 <p>(2)【歴史的風致に係る活動の保存・継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の担い手不足が危惧される伝統芸能を担う団体と引き継ぎの継承活動を保つため、協議を実施し、担い手の育成について検討する。 <p>(3)【歴史的風致の周辺環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物やそれ以外の周辺環境の保全整備のため、所有者に対して適切な管理を促す。また経年劣化等による破損が見受けられる空き家は、空き家対策協議会とも連携し管理団体の紹介等を実施する。 <p>(4)【歴史的風致の普及啓発の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観に配慮したサインの設置と、DXを用い端末操作により歴史的文化資源が容易に理解できる環境整備を実施する。 			